

非溶接工法を積極展開

無火気で高い評価得る

Y K K A P

現場の声もとに更なる改善図る

YKKAPが溶接を用いないサッシ施工方法として展開している「非溶接工法」。同社は、13年度に30億円だった同工法の売り上げを50億円(商品価格+工事費)とするを目標に掲げ、工法の積極展開を図っている。実際に同工法を採用した感想はどのようなものか、栃木県大田原市で工法を採用している現場を取材した。



非溶接工法で取り付けしたサッシ

と太鼓判を押す。一方で「躯体へのピン打ちの音を軽減できれば、なお良い」との注文もあった。YKKAPでは、現場での感想を定期的に聞いて、工法の改良を進めるとともに、メリットをPRしていくことで、さらなる普及・拡大を図る。

不要なこと。現場で火災なメリット。配線や保護の心配がないのは、大きなメリット。管理も楽

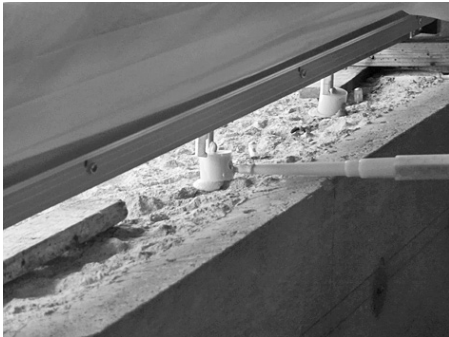
今回取材した非溶接工法を導入している現場は、同市の消防署建築工事。設計をフケタ設計、施工を那須・方・桜岡・DI・SANWA・青木JVがそれぞれ担当する。現場では、YKKAPの断熱構造アルミ窓、EXIMA32などを非溶接工法で設置している。

同工法では、躯体に打

鉸ピンを打ち込み、ピンとサッシ枠側のアンカー部品の間に樹脂材を注入する。樹脂材は次第に硬化し、溶接の代わりにな

り、サッシを取り付けることができる。強度も溶接と変わらないという。溶接がなくなることで火災や感電のリスクがなくなる。非溶接工法なら施工にあたり、アーク溶接の資格も必要ないため、若い技術者でも施工することができるようになるなど、多くのメリットがある。

現場でサッシ工事を担当する土井工業の土井寛さんは、「火気がないのはメリット。今までの工法と手順は異なるが、慣



樹脂材を注入するようす

れれば問題ない」という。現場代理人を務める那須土木の阿久津敏之さんも「非溶接工法を導入した一番の理由は、火気が